（郵信書認可）　（本號四面）　明治二十一年十一月廿七日　（定價二錢）

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千百二十一號
明治廿一年十一月廿七日火曜日
舊戊子十月廿四日（壬寅）
日出午前六時三十分　日入午後四時二十七分
月出午後零時四十分　月入午前零時四十二分
滿潮午前十時十四分　干潮午後二時十四分
（西暦一千八百八十八年）

時事新報

時事新報代金の早達便

時事新報代金送達の便を謀り内國通運會社と特約を結びたるに就き左記の地方より御拂入れの新報代金は同會社の貨幣早達便より御依托相成候得ば特別の左表の運賃より二割を引き且つ無配達賃にて送達可致候現行の郵便小爲替法にては三圓以下の金員を送達する に爲替料三錢郵券料二錢、書留料六錢都合十一錢を要する事なれ共今此の貨幣早達便より依れば五圓以下は只四錢の運賃のみにて送達し若し送金通知書を發する場合には右の運賃に端書一葉の代金一錢を加へ悉皆の費用五錢にて事足るべきに付新報代價の拂入には最も便利なる法と存候

時事新報社

内國通運會社貨幣早達便取扱箇所

東京佐内町　尾張熱田　駿河静岡　陸奥青森
尾張名古屋　下野宇都宮　甲斐甲府　越前敦賀
上野前橋　信濃長野　遠江掛川　山城京都
信濃上田　岩代郡山　三河岡崎　上野高崎
陸信前仙臺　陸中盛岡　近江大津　加賀金澤　下野千葉　越後岩代若松
渡嶋函館　備前岡山　攝津大阪　栃木宇都宮　直江津
讃岐丸亀　筑前博多　下野足利　水戸　羽前山形
武藏相模小田原　長門赤間關　常陸岩代福嶋　石狩札幌
武藏横濱　相模藤澤　越後新潟　美濃岐阜

（追々箇所增設の筈）

内國通運會社貨幣早達便運賃表

（時事新報代金は此表より二割引を以て送達すべし）

		遠近より拘いらず運賃金
同	五圓未滿	五錢
同	十圓迄	七錢
同	十五圓迄	十錢
同	二十圓迄	十三錢
同	廿五圓迄	十六錢
同	五十圓迄	二十錢

又此早達便より托したる金員不着の節は内國通運會社之を辨償して送出人に損毛を掛けざる定めなり

時事新報

時事新報

サイベリヤ鐵道は一種の運河鐵道あり

先頃の時事新報紙上に歐人將より日本に向て行遊列車を置せんとすと題してサイベリヤ鐵道落成の後は巴里の士女よりして日本國に來り遊ぶ者も多ぐるべしとの次第を載せたれども疑はしきは工事竣成の如何にして一方の既より露京より浦鹽斯德までは距離凡そ七千餘哩、既よりの一點に於て困難少からざるに加ふるに財政不如意の露國あれば鐵道の計畫は到底畫餅に歸するおらんと云へり此說たる一應其理由あきに非ず特にサイベリヤは茫々たる無人迹の荒野なれば七千餘哩の線路を敷くには單に左右の兩端より順を追て進むの外に手段あらざる可し尋常の工事ならば七千哩を數十の區劃に分ち毎區一齊に其工を始むると容易おらんと雖もサイベリヤの鐵道に此法を用ふるを得ざるは起業第一の困難なり隨て其工事覺束なしとの說は較世人の信ずる所なれども然れども熟々其地理狀勢を推察し又露國政府が起工の順序を尋ねるに鐵道の計畫決して漫然たる漫畫からず單に露京浦鹽斯德間の距離を七千餘哩と計算して一直線の軌條を列らね一瀑の汽笛に行客を送迎するの金と思へばみな工事も困難なるが如くあれども實際はサイベリヤの中央を貫流せる數條の河流を利し尙ほ足らざる所には運河を開き河流運河の二つにして其用の未だ完からざる地方を限り一線の鐵道敷て列車を運せしむる仕組あれば七千哩中、軌條を要する部分とては僅々に過ぎず即ち工事の順序は專ら河川の脈に沿ひたる者にしてバイカル湖シータ府間、カンカ湖浦鹽斯德港間の兩所に取敢へず數百哩の鐵道を敷けば他は水運の便に依て往來自在なるを得べしと云ふ

中央亞細亞の地圖を開したる人はウラル山の東に於てサイベリヤを横貫する河流にオビ、エニセイ、黑龍江（アムールと云ふ）の三大川あるを知るべしオビはアルタイ山の源流を受けオビ灣に入り北氷洋に合する二千餘哩の長川あれば支流も亦少からず就中トボール河はウラル山の南麓に起り五百哩の流を延ひトボルスク府に達せんとするの幸ひチーメン府はトボールの河岸にあれば此より轉じて水路に移りイルチシ河を下りてイルチシ、オビ兩水合流の處より更に航路を變じてオビ川を溯る時は中央サイベリヤの大都會なるトムスク府に到るを得べきトムスク府の北西一百里よりしてチユーリム河よりエニセイ川に通ずる運河ありて航路全く絶ゆるが故に此所より東に向ひエニセイ川の間に運河を開鑿せんとするの議は露國政府に於て既に之を可決しなるよし其里數は詳ならざれ共エニセイ川と相距る遠くして尙ほ七八百哩を超えざるおらんと云へり斯てチユーリム河よりエニセイ川に通ずる運河落成する時はニニセイを下りて轉じてツングスカ河に入るを得べしエニセイは支那領蒙古に源を發し海口まで延長二千五百餘哩の長流にしてツングスカは其支流なりツングスカを溯れば アンガラ河と爲りアンガラ河を登り詰むれば有名なるバイカルに達すバイカルは亞細亞第一の大湖よりして延長三百九十七哩その幅平均四十五哩を占め殆んどサイベリヤの中心に位すれども海面を拔く僅々一千三百尺其地勢の卑くして平坦なる想ふべきなり又バイカル湖の東三百哩にしてシータと稱する一府あり東サイベリヤの中央貿易市場にして露京より浦鹽斯德に通ずるには此地を以て要衝とするあれば バイカル湖畔より同府まで凡そ三百哩の鐵道を布設すればシータ府以東は水運の便に依て浦鹽斯德に達するのみと雖からず其水理はインゴンダ河ゴルチンスク府に達しチルチンスク府より更にシルカ河に航路を轉じ下るのみと數百哩にして黑龍江に通するが故に直線千里の流に乘じて黑龍江とウスリー河と合流の處に到り轉じてウスリーを溯れば カンカ湖に入るのみと容易なりインゴンダ、シルカ若くはウスリーの諸河は都て黑龍江の支流なればシータ府以南カンカ湖に入る間は航路頗る自由なれども浦鹽斯德よりウスリーの河岸までは水路不便にして運河の見込に乏しければ共間に二三百哩の鐵道を布設せざる可らず即ち浦鹽斯德とハンカ湖、バイカル湖とシータ府との間に就れも三百哩内外の鐵道を布き又エニセイ河とオビ河との間に七八百哩の運河を穿つ時は露京より浦鹽斯德まで汽船鐵道を互に利して來往を通ずると至て無造作なるが故に露國政府の設計は先づかれ出でんかと云へり人跡の絶したる原頭に七千餘哩の一直線を描て片端より土工を着手し落成を期年に求めんとする事業は到底覺束なしとしたる論者も他年一日謂ゆるサイベリヤ鐵道の全通に會して却て案外の變に驚くことあるべし何とあれば名は鐵道と稱すと雖も實は天然の河流を利して汽船の來往を開く傍ら間々水利の通せざる所あるを以てこれに鐵道を布て水陸の運輸を全うせんとする者即ちサイベリヤ鐵道の本色なればなり

官報

○大藏省告示第百四十四號

本月大藏省告示第百三十九號ニ據リ七分利付金祿公債元金償還ノ爲メ本月二十日當省主務ノ官員東京府廳ヘ出張シ全國證書所有者ノ總代人十四名立會ノ上抽籤執行セシ處別冊金額及記號番號ノ證書當簽セリ

明治廿一年十一月廿六日　大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第百四十五號

一本月抽籤ヲ以テ償還シタル七分利付金祿公債元金ノ代リトシテ整理公債證書ノ交付ヲ望ムモノハ其申込書ニ當籤證書ヲ添ヘ各自元利金ノ交付ヲ受クヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ請求スヘシ

一當籤ノ證書ニシテ其額整理公債證書ノ額面ニ滿タサルモノアルトキハ之ニ他ノ六分以上利付金祿公債證書ヲ加ヘテ前項ノ請求ヲナスコトヲ得

一整理公債證書ノ利子ハ二十一年十二月ヨリ之ヲ付ス但本年十二月三十日ヲ過キ交換ノ請求ヲナスモノハ其請求ノ翌月ヨリ利子ヲ付ス

明治廿一年十一月廿六日　大藏大臣伯爵松方正義

○敍任及辭令　明治二十一年十一月二十二日

兼任高等商業學校教諭　大藏屬　澤井宗之
敍奏任官五等　高等商業學校教諭　澤井宗之
大藏屬　長崎剛十郎
大藏屬　三原經國
野村虎次郎
原口敏行
竹村欽次郎

（各通）

試補ヲ命ス
年俸六百圓下賜
國債局勤務ヲ命ス

（各通）

主計局勤務ヲ命ス　試補　長崎剛十郎
總務局報告課勤務ヲ命ス　試補　三原經國
出納局勤務ヲ命ス　試補　野村虎次郎
試補　原口敏行
試補　竹村欽次郎
（以上十一月二十四日大藏省）
軍醫學舍教官陸軍一等軍醫　森林太郎
兼補陸軍大學校教官

○北京南海鐵道の起工　南海（北京北部の地名）に敷設する數里間の鐵道は海外より注文したる諸機械近日到着すべきに付き目下海軍衙門及奉宸苑衙門の命を以て工夫七百名を招集し本月二日より起工したりと云ふ（本月十一日上海申報）

雜報

○神奈川縣會　去る二十三日は神嘗祭にて休日なるも係らず同會は議事の都合により午前より開會し第二號議案の二次會を略議し了り引續き第一號議案の地方稅郡區負擔割合の三次會を開きしが右負擔割合の中は前號の紙上に掲載せし監獄費の負擔割合もあるとなれば午前十一時頃より午後四時半頃まで審議せし末遂に同費は郡區割合を異にし區部は郡部の二倍を負擔するとに決したるよしなるが當日の議事は隨分活潑なる辨論も多く區部に在ては今村角太郎、關嶋宇兵衛、齋藤松三（何れも代言人）戸塚千太郎、肥塚龍等の諸氏、郡部に於ては吉野素造（郡部會議長）井上篤太郎、古谷正愼、中村克昌、中溝昌弘等の諸氏何れも同縣會議場に名ある辨士にして花々敷しく分しむる程あり掲載せし通り田道之助氏は治十四年來拙的の事業は平業は獨り監獄多摩川、酒匂川水費を郡部より との主意を陳も其賛成は決之れを採用せ

○第一高等中四日を以て舉有餘名の生徒經て中山道を隊よりて將さよのに擬し更軍隊の一大隊に斯くて同日午場に集まり愈は王子より向り東軍の吉祥長は今や騎兵ば直ちに王子ば速に出陣のへて食事を取なし西軍亦同隊の樣子探偵や西軍は瀧ノにくはり其要二手に分ちて く砲聲あれは横に馳し各と時餘遂に局て茶菓の饗たるの後再ひ山に呑かんと式操練教師食劣なかりし由し各同校の正又軍旅教師鳥配布したりと

○造幣局事務歸任の途に就る埼玉縣下川局へ向け一昨

○東京美術學彼是延引して入る間は航路の河岸まで內の內部模旬なるべしと日もなければいふ

○東京女學つ組織を改め